

「共感する力」

あの人の心の苦しみがわかる。あの人のやるせない気持ちが分かる。

そのように他人のもつ真実のものに共感できるのは、地球上の生き物の中で人間しかない。

(いのちの言葉 日野原 重明)

梅雨はまだ続っていますが、陽射しの強さや夏の緑の匂いを感じた時などは、初夏の始まりを予感させてくれます。四季折々の風物詩やその時季の旬の食べ物などがあるというのが日本の良い所だと思います。夏本番を迎えるまでもう少し、夏が近づいている音や景色を楽しみながら過ごしていきたいと思います。

子どもたちは少しずつ身の回りのことにも興味を持ち友だちとのかわりも増え、泣いていると傍らに行き慰めるように頭を撫でたり、玩具を手渡すなど悲しみや寂しさに寄り添う姿がみられます。又、楽しそうに遊んでいる様子を見て「面白そう」「やってみたい」と同じ遊びを行ないながら、顔を寄せ笑い合うなど喜びを共感しています。言葉に表せない子どもたちは、仕草や表情でたくさんの思いを伝えてくれます。私たちは、何かしらのサインを感じた時にはしっかりと応答していくことで、安心感や信頼感を与えられるようにしていきたいと思います。愛されているという実感は、相手へのおもいやりに繋がりが、大切に思う気持ちが芽生えてくるのだと思います。子は親の鏡という言葉がありますが、家族という輪から園という別の集合体の中での子どもたちの営みを見ているとその背景にある家族の様子が浮かんできます。七夕の短冊に親としての願いを書くとしたら他人より倅せになれと願うでしょうか。目の前にあるかけがえのない幼子に大人達が寄せる気持ちは、いつも優しさに溢れていたいですね。それぞれの世界が広がり始めたばかりの子どもたちが、人と人との繋がり大切さを感じ、様々な出来事に出会い「共感」しながら豊かな心を育めるようお願いしたいと思います。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子

職員一同

7月聖句

主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。

詩編5篇4節

7月主題

「そうそう」0歳

- ・保育者の祈りやさんびかに親しむ。
- ・暑いので汗を流してもらい、心地よさを感じる。
- ・砂や泥、水に触れ、その感触を味わう。

「そうそう」1・2歳

- ・祈りや賛美を喜ぶ中で神さまであう。
- ・自分と同じようなことを楽しむ友だちの存在に気付く。
- ・水、土、泥などに触れ、感触を楽しむ。

～子どもたちの姿～

蒸し暑さの中、梅雨明けの知らせが待ち遠しい今日この頃。子どもたちは、みんなで育てている中玉トマト・白い苺・紫キャベツなどの生長を楽しみにしています。中でも給食で目にするこの多い「トマト」(品種名 凜々子)への関心が高く、保育者の手を引きながら茎や葉の間を覗き込み「大きいね」「小さいね」と一つひとつの大きさが異なっていることに気付いたり「赤くないね」「まだかな」と色の変化していくことを今か今かと楽しみにしています。また、これまでは口にできなかったトマトを自ら口に運ぶなど野菜に親しみをもち、食べる意欲に繋がって来ています。これからも活動を通して芽生えた一人ひとりの気持ちを大切にしながら園生活を過ごしていきたいと思っています。



	月	火	水	木	金	土	日
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							
	クレイシュ通信						
<p>◎汗をかいた際はこまめに着替えますので、多めに衣服をお持ち下さい。 ◎爪が伸びていると怪我に繋がる場合もありますので、こまめに爪切りをお願いします。 ◎内科検診・歯科検診を予定しています。</p>							

7月の予定表

身体測定

海の日

内科検診(予定)

誕生会

歯科検診(予定)

避難訓練

クレイシュ通信